

歴史書の中の祈りの連鎖

ソロモンの祈りとダニエルの祈りを中心に

聖書で「祈り」といえば、詩篇を思い出す。しかし、歴史書にも、ところどころに祈りが散りばめられている。出エジプト記や申命記のモーセの歌（出エ15章、申命32章）、預言者サムエルの母ハンナの感謝の歌（1サム2章）、サウル王からの救いに感謝するダビデの歌（2サム22章）などである。

詩篇の書では、その詩篇が書かれた背景が詳しく説明されてはいない。しかし、歴史書の祈りにおいては、前後関係によって、背景が明らかにされている。よって、祈りの意味を解く上で、誰が祈り、どのような状況で祈られたのかを理解することが重要な手がかりとなる。

とはいえ、これらの祈りは、各出来事における役割のみにはとどまらない。ある祈りを読めば、他の箇所を指していることに気づく言い方が出てくる。世代を超え、時代を超えて、さらに大きな文脈の中での連鎖を確かめることによって、相互の関係ばかりでなく、個々の祈りの理解も深まるものである。

神殿を奉献する時にささげたソロモン王の祈り（1列王8章、2歴代6章）とバビロンへ捕え移された時にささげたダニエルの祈り（ダニ9章）は、他の祈りにくらべて、相互の連鎖が、より明らかである。「しもべの祈りと願いを聞いてください」と繰り返し訴え、「主の御名がつけられている町」のために、「そむきの罪を赦してください」と求める。それもそのはず、ソロモンもダニエルも、同じ神殿のために祈っている。ソロモンの建てた約束の神殿が、ダニエルの時代に破壊されてしまったのである。

ソロモンの祈りとダニエルの祈りを中心に、祈りの歴史的ー貫性を明らかにしていきたい。

1. ソロモンの祈り
2. ダニエルの祈り
3. ソロモンの祈りとダニエルの祈りの連鎖
4. 歴史書に見る祈り

おわりに

1. ソロモンの祈り（1列王記8:23-53）

歴史的背景

イスラエルの王、ダビデの子、ソロモン。ソロモンについての理解の始まりは、父ダビデの時代にさかのぼる。主の御名のために宮を建てる志を持ち続けていた（1歴代22:7）ダビデは、周囲の敵から守られ、安息を与えられた時、主の住む家を建てることを願った（2サム7:1）。そして、それに対する答えとして、主から一つの契約が与えられた（2サム7章、1歴代17章）。それは、二つの約束を伴うものであった（2サム7:13）。

- ・主の家の建設 「わたしの名のために一つの家を建てる」
- ・王座の確立 「その王国の王座をとこしえまでも堅く立てる」

「王座をとこしえまでも堅く立てる」と言われた、その約束は、初めにソロモンによって成就した。神は、彼とともにおられたので、並みはずれて偉大な者となり（2歴代1:1）、彼によって、イスラエルに平和と平穏が与えられた（1歴代22:9）。神はまた、ソロモンが求めた「正しい判断を聞き分ける判断力」（1列王3:11）をも与えられたので、彼の知恵のゆえに、すべての国の人々は、やって来ては（1列王4:34、10:1）、主をほめたたえた（1列王10:9）。

ソロモン自身も、自分が約束の子であることを知っていたので、父ダビデに代わって王となった時、次のように祈っている。「あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。...きょう、その王座に着く子を彼にお与えになりました。」（1列王3:6-7）

さらに、神は、ダビデへのもう一つの約束をも、ソロモンを通して果たされた。それが、ダビデが、予ねてから、いつも心がけていた、主の御名のために宮を建てることである（1歴代22:7）。ソロモンは、周囲の者から守られ、安息を与えられた時に（1列王5:4）、主の家の建設に取りかかった。彼は、ダビデが用意していた、数えきれないほどの材料に加え、各種の仕事に熟練した者たちを多く集めた（1列王5:13-18）。こうして、七年の月日を経て、すべての部分を、その明細通りに完成させた（1列王6:38）。

そして、七月の新月の祭りの時、イスラエルのすべての人々は、ソロモン王のもとに集まり、祭司とレビ人たちによって、主の箱、会見の天幕、天幕にあったすべての聖なる用具とを運び上った（1

表1 ソロモンの神殿奉獻の祈り（1列王記8:23-53）

a ダビデに約束されたことを守られた（8:23-26）

- ・ 契約と愛と守られる方
- ・ 御手をもって、これを今日のように、成し遂げられました
- ・ 父ダビデに約束されたみことばが堅く立てられますように

b しもべの祈りと願いに御顔を向けてください（8:27-30）

- ・ あなたのしもべとあなたの民イスラエル
- ・ 夜も昼も御目を開いてくださって

c 七度の罪の赦し（8:31-51）

- ・ ~のため、この宮に向かって両手を差し伸べて祈るとき、あなたご自身があなたの御住まいの所である天で聞いてください。
のろいの誓い（8:31-32）、敗北（8:33-34）、ききん（8:35-36）、疫病（8:37-40）、外国人（8:41-43）、戦い（8:44-45）、捕囚（8:46-51）

b しもべの願いを聞いてください（8:52-53）

- ・ あなたのしもべの願いと、あなたの民イスラエルの願い
- ・ 御目を開き

列王8:2-4)。このこともまた、契約の成就であると知っていたソロモンは、完成した神殿をささげる時に、8章の「神殿奉獻の祈り」をささげたのである。この祈りと願いとを聞いてくださった神は、「わたしのおきてと定めとを守るなら、わたしが、あなたの父ダビデに...約束したとおりにしよう。」との答えをくださった（1列王9:4-5）。

構造

決して短くはないながらも、同じ言い回しの繰り返しにより、容易に全体を把握することができる。形式的に分けられ、構造は明快である。

c. 七度の罪の赦しを求める祈り：「～のため、この宮に向かって両手を差し伸べて祈るとき、あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天で聞いてください。」という言い方が七度繰り返される。

b. あなたのしもべの祈りと願いを聞いてください：どのような時にも、すべての場合に、民イスラエルがささげる祈りと願いが、天に聞き届けられるようにと、民のために熱心に祈ると同時に、ソロモン自身が、この時にささげている祈りと願いが、聞き入れられるようにとも、七度の繰り返しを囲む形で、最初と最後で願っている。

a. 父ダビデに約束されたことを守ってくださった：ソロモンは、この祈りの出だしで、まず、父ダビデに約束されたことを、守ってくださった主への感謝をしているのだが、それによって、その後ささげられているすべての祈りと願いとが、ダビデへの約束に基づくものであることを明らかにしているのである。これはまさに、神ご自身の本質に訴えかける姿を、この構造からも表現しているのであると言えよう。「わたしは、わたしの契約を破らない。くちびるから出たことを、わたしは変えない。...わたしは決してダビデに偽りを言わない。」（詩篇89:34-35）

2. ダニエルの祈り (ダニエル9:4-19)

歴史的背景

ソロモンの知恵と平和のイスラエル統治から時を経て、ユダの王エホヤキムの治世の第三年。バビロンはエルサレムを包囲し、ユダの王族や貴族の数人を捕虜とした。その中に、ダニエルはいた。

彼は、あらゆる知恵に秀で、知識に富み、思慮深い者であったので (ダニ1:4)、多くの夢と幻とを解き明かすことができた。彼はまた、捕らわれていった遠い敵国においても、神にも王にも忠実に仕えたので (ダニ6:4)、神は彼を救い出された。しかし、なぜ、ユダはバビロンへ捕虜となってしまったのだろうか。

原因は、ユダのそむきの罪にある。ユダは、幾度となく、神の行われたしるしと奇跡とを見ておりながら、しもべである預言者たちが御名によって語ったことばに聞き従うことをせず、主にそむいて、命令と定めから離れてしまった (ダニ9:5-6)。神は、早くからしきりに使者たちを遣わし、ご自分の民と、ご自分の御住まいとをあわれまれたが、彼らはみことばを侮り、心を閉ざして、主に立ち返ろうとはしなかった (2歴代36章)。

ついに、主の激しい憤りは民に対して積み重ねられ、それまで天下になかったほどのわざわいが彼らの上に下された (ダニエル9:12)。主はすべての者を、若い者から年老いた者に至るまで、バビロンの手に渡されたので、彼らは来て、主の宮を焼き尽くし、エルサレムの城壁を取り壊し、さらには、主の宮の用具をすべてバビロンへと持ち去っていったのである (2歴代36章)。こうして、ユダについて語られたすべてのわざわいが臨み、彼らは廃墟となり、恐怖、あざけり、のろいとなった (エレ25:18)。

この時、エルサレムの荒れ果てた状態を目の当たりにした、預言者を初め、主を恐れる者たちは、主の御名により、罪の赦しを熱心に願い求めた。ダニエルもそのうちの一人である。預言者エレミヤにあった主のことばによって、エルサレムの荒廃が終わるまでの年数が七十年であることを悟ったダニエルは (ダニ9:2)、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、主に祈り、願い求めた。それが、9章の「悔い改めの祈りと願い」である。

構造

ことばだけでなく、言い回し単位での繰り返しも多いため、構造はわかりやすい。丹念に同じことば、言い方にしるしを付けると同時に、対語、対句にも注目することが分析する上での重要な手がかりとなる。

ダニエル自身が、祈りのあとがきとして、この祈りと願いを、「自分の罪と自分の民イスラエルの罪を告白し」 (9:20a)、「私の神の聖なる山のために、私の神、主の前に伏して願いをささげていたとき」 (9:20b) という二つに要約してくれており、それが、概略となっている。

構造2.1 ダニエルの祈り (ダニエル9:4-19)

a 民イスラエルの罪の告白 (9:4-15)

- ・自分の罪と自分の民イスラエルの罪を告白し (9:20a)

b 聖なる山のための願い (9:16-19)

- ・私の神の聖なる山のために、私の神、主の前に伏して願いをささげていたとき (9:20b)

構造2.2 民イスラエルの罪の告白（ダニエル9:4-15）

- a **罪を犯し、不義をなし、悪を行った（9:4-5）**
 - ・ 主を愛し、命令を守る者には、契約を守り、恵みを下さる方（御名）
 - ・ 私たちは罪を犯し、不義をなし、悪を行い
 - b **御声に聞き従わなかった、不面目（9:6-10）**
 - ・ しもべである預言者たちによって私たちに下さった律法
 - ・ 御声に聞き従いませんでした
 - ・ 不面目は私たちのものである
 - b' **御声に聞き従わなかった、わざわい（9:11-14）**
 - ・ 神のしもべモーセの律法
 - ・ 御声に聞き従いませんでした
 - ・ モーセの律法に書かれているわざわいが下った
 - a' **罪を犯し、悪を行った（9:15）**
 - ・ あなたの名をあげられました
 - ・ 私たちは罪を犯し、悪を行いました
-

a. **罪を犯し、悪を行った**：民イスラエルの罪の告白をする前半は、それにふさわしく、「罪を犯し、悪を行いました」という罪の告白に囲まれている。また、ここには、「命令を守る者には、契約を守り、恵みを下さる方」であるという主の御名の宣言（9:4）と、エジプトの地から連れ出し、ご自分の名をあげられた（9:15a）という並行も見られる。

b. **御声に聞き従わなかった**：罪の告白に囲まれている真ん中の両段落では、どのような罪であったのか、その罪による結果が具体的に説明されている。どちらの段落も「御声に聞き従いませんでした」という言い方に囲まれていることから、ユダの罪は、聞き従わないことであることがわかる。それによって、不面目（顔の恥）が私たちのものとなった（9:7-9）。また、モーセの律法に書かれているわざわいがすべて下ってしまったのである（9:11b-14a）。

構造2.3 聖なる山のための願い（ダニエル9:16-19）

- a **エルサレムとあなたの民がそしりとなっている（9:16）**
 - ・ エルサレムとあなたの民
 - b **荒れ果てた聖所に御顔の光を照らしてください（9:17）**
 - ・ しもべの祈りと願いを聞き入れてください
 - ・ 荒れ果てた
 - ・ 御顔の光を照らしてください
 - ・ 聖所
 - b' **あなたの町をご覧ください（9:18）**
 - ・ 耳を傾けて聞いてください
 - ・ 荒れすさんださま
 - ・ ご覧ください
 - ・ あなたの御名がつけられている町
 - a' **あなたの町と民のために聞いてください（9:19）**
 - ・ あなたの町と民
-

a. **あなたの町と民のために**：聖なる山のために願う後半では、町と民についての願いが最初と最後になされている。エルサレムと民とは、その罪のために敵のそしりとなった。しかし、名がつけられている町のために、赦してくださいという願いに変わっている。この段落で、「町」と「民」とい

うことばを対で使う意味については、この祈りの答えとしてガブリエルを通して語られたことばにも見ることができる。「あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。」（ダニ9:24）

b. あなたの名がつけられている町のために：真ん中の二つの段落では、主の御名がつけられている町のために、主が御顔を向けてくださることを願う。御顔を向け、見てくださることが民の救いであることは、民数記6:24-26の大祭司の祝福のことばからも明らかにされることである。「主が御顔を向け、あなたに平安を与えられますように。」（民数6:26）

3. ソロモンの祈りとダニエルの祈りの連鎖

祈りの共通点

ソロモンの祈りとダニエルの祈り、これら二つの祈りには、一読するだけでも多くの共通点が見られるが、一つ一つ確かめていくと、その関係性は想像以上である。

表1 ソロモンの祈りとダニエルの祈り

ソロモンの祈り	ダニエルの祈り
契約と愛を守られる方 (23)	契約を守り、恵みを下さる方 (4)
彼らの祈りと願いを聞き (28, 29-30, 33-34, 38-39, 45, 49,)	あなたのしもべの祈りと願いとを聞き入れ (17)
彼らの祈りを聞いて (28, 29, 30, 32, 33-34, 35-36, 38-39, 42-43, 44-45, 49, 52)	祈りを聞いてください (17, 18, 19)
聞いて、お赦してください (30, 34, 36, 39, 49-50)	主よ。聞いてください。主よ。お赦してください。 (19)
力強い御手と、伸べられた腕 (42) あなたがエジプトから、すなわち鉄の炉から連れ出された (51, 53)	力強い御手をもって、あなたの民をエジプトの地から連れ出し (15)
どんなわざわい、どんな病気の場合にも (37)	大きなわざわい (12, 13, 14)
のろいの誓い (31)	のろいと誓い (11)
彼らが、遠い、あるいは近い敵国に捕虜として捕らわれていった場合 (46, 47, 48)	あなたが追い散らされたあらゆる国々で、近く、あるいは遠くに在るすべてのイスラエル人 (7)
あなたのしもべ (23, 26, 28, 29, 30, 32, 36, 52) あなたのしもべ、私の父ダビデ (24, 25, 26) あなたのしもべモーセ (53)	あなたのしもべ (17) あなたのしもべである預言者 (6, 10) 神のしもべモーセ (11)
あなたの民イスラエル (30, 33, 34, 36, 38, 41, 43, 51, 52)	あなたの民 (15, 19)
「わたしの名を置く。」と仰せられたこの所 (29, 44, 48)	あなたの御名がつけられている町 (18, 19)
彼らがあなたに罪を犯したため (33, 35, 46, 47)	私たちが神に罪を犯したからです (5, 8, 11, 15,)
「私たちは罪を犯しました。悪を行なって、とがある者となりました。」 (47)	私たちは罪を犯し、不義をなし、悪を行い (5, 15)
すべてのそむきの罪を赦し、彼らを捕らえていった者たちが、あわれみの心を起こし、彼らをあわれむようにしてください。 (50)	あわれみと赦しとは、私たちの神、主のものです。 (9)

[表1] からわかるように、ダニエルの祈りはソロモンの祈りを土台としている。ダニエルは、ソロモンの祈りと同様に、神の約束に訴える祈りをささげているのである。

ソロモンの祈りで最も特徴的な、七度の罪の赦し（1列王8:31-51）。その七つ目が、まさにダニエルの状況に当てはまる。

「彼らがあなたに対して罪を犯したため...彼らが遠い、あるいは近い敵国に捕虜として捕らわれていった場合...あなたが選ばれたこの町、私が御名のために建てたこの宮のほうに向いて、あなたに祈るなら、あなたの御住まいの所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、...あなたに対して罪を犯したあなたの民を赦し...彼らをあわれむようにしてください。」（1列王8:46-51）

ダニエルは、捕らわれていった敵国で、この祈りを思い出し、エルサレムに向かって祈った（ダニ6:10）。「私たちは罪を犯し、悪を行いました。」（1列王8:47、ダニ9:5、15）と罪を告白して、主に立ち返ったのである。それゆえに、祈りは神に聞き届けられた。神は、ソロモンの祈りを覚え、ダニエルのために行なって下さったのである。

祈り以外にも見られる共通点

ダニエルの祈りとソロモンの祈りの共通点は、祈りの中だけではない。歴史的背景、登場人物、会話といった、くらべるべきしるしが、祈りの周りにも存在する。

■**神殿のために**：ソロモンとダニエルは、どちらも同じ神殿のために祈っている。一方が、ダビデの約束に従い、念願だった主の宮を建てた時にささげた祈りであるのに対して、もう一方は、ユダのそむきの罪のために、その神殿が崩壊される時にささげた祈りである。同じ神殿のためであるとはいえ、それぞれ状況は全く逆である。これは、ソロモンにすでに約束されていた契約の呪いであった。神は、ソロモンの祈りに対して、「もし、あなたがたの子孫が、わたしにそむいて従わず、...行ってほかの神々に仕え、これを拝むなら、...この宮も廃墟となる」（1列王9:3-9）と答えられた。はたして、ダニエルの時代に、その契約の呪いが成就したのである。

■**神に愛される者**：ソロモンには、主のためにもう一つの名前が与えられた。「エディデヤ」で、主に愛される者という意味である（2サム12:24-25）。また、「愛」という意味の名前のダビデの子でもある。ダニエルについては、「神に愛されている人」であると三度も繰り返される（ダニ9:23、10:11、10:19）。神に愛されている人であるから、一つのみことばが述べられたと言わしめたほどの人物である（ダニ9:23）。神に愛された者たちが、御名のつけられている町（1列王8:29、ダニ9:18、19）と神の愛された民（1列王10:9）のために祈ったのである。

■**知恵ある者**：彼らはまた、知恵のある者であった（1列王4:29-30、ダニ1:4）。ソロモンは、彼のもとにもってこられたすべての難問を説き明かすことができた（1列王10:3）。ダニエルも同様に、知恵をもって、多くの夢、幻、なぞを解き明かした（ダニ5:12）。神の愛と知恵とに満たされたソロモンとダニエルは、「恐れるな。強くあれ。雄々しくあれ。」との励ましを受け（1列王2:2、1歴代22:13、ダニ10:19）、約束の地のために戦い、新しいヨシュアとしての働きを全うしたのである。「主のしもべの子孫はその地を受け継ぎ、御名を愛する者たちはそこに住みつこう。」（詩篇69:36）

■**神のしもべ**：これまで挙げてきた共通点は、神が彼らについて語られたことであるが、本人たちの自身の呼び方にも、神との関係に関する共通認識が見られる。祈りの中で、自分たちを「あなた（神）のしもべ」と表現する（1列王8:28、ダニ9:17）。神のしもべとして、主である王の御前に祈りと願いをささげた。だが、「あなたのしもべ」という表現は、エズラ（エズ9:11）やネヘミヤ（ネヘ1:11、9:14）、新約時代においては、マリヤ（ルカ1:48、54）やシメオン（ルカ2:29）など、他の祈りでも使われる。事実、ソロモンとダニエルも、自分たち以外のモーセ（1列王8:53、ダニ9:11）、ダビデ（1列王8:24）、預言者（ダニ9:6、10）についても、あなたのしもべと呼び、主に訴えているのである。

4. 歴史書に見る祈り

旧約時代における連鎖

特に、ソロモン以降の歴史書の中に散りばめられている祈りの相互関係を探る。それらの祈りは、[表2]の通りである。

表2 歴史書の中の祈りの全体像

	神殿奉献		神殿崩壊	神殿再建	
モーセ 申命28-30章	ソロモン 1列王8:23-53 2歴代6:14-42	ヨシャパテ 2歴代20:6-12 ヒゼキヤ 2列王19:15-19	ダニエル ダニ9:4-19	エズラ エズ9:6-15 ネヘミヤ ネヘ1:4-11 ネヘ9:6-37	シメオン ルカ2:25-35 アンナ ルカ2:36-38

■モーセのことば（申命28-30章）

ダニエルの祈りの基盤にソロモンの祈りがあるのだとすれば、ソロモンの祈りは何に基づくものであるのか。主に二つあるが、一つは、ダビデの契約であることは前述の通りである。もう一つは、申命記28-30章の契約の祝福と呪いである。「もし、主の御声に聞き従わず、すべての命令とおきてを守り行わないなら、あなたはのろわれる。」（申命28:15）七度の罪の赦しは、この契約の呪いに基づいている。

表3 ソロモンの祈りと申命記28-30章

ソロモンの祈り	申命記28-30章
ある人が隣人に罪を犯し、のろいの誓いを立てさせられることになって（1列王8:31-32）	主が、きょう、あなたと結ばれるのろいと誓い（申命29:12）
罪を犯したために敵に打ち負かされたとき（1列王8:33-34）	主はあなたを敵の前で敗走させる（申命28:15）
罪を犯したため、天が閉ざされて、雨が降らない場合（1列王8:35-36）	あなたの頭の上の天は青銅となり（申命28:23）
どんなわざわい、どんな病気の場合にも（1列王8:37-40）	主は疫病をあなたの身にまといつかせ（申命28:21-22）
あなたの民イスラエルの者でない外国人についても（1列王8:41-43）	
敵に立ち向かい、あなたが遣わされる道に出て戦いに臨むとき（1列王8:44-45）	
罪を犯したため、彼らが遠い、あるいは誓い敵国に捕虜として捕らわれていった場合（1列王8:46-51）	主があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたがこれらのことを心に留め（申命30:1-4）

申命記29章ののろいの誓いで始まり、申命記28章を挟んで、申命記30章の「たとい、天の果てに追いやられても、あなたを集め、連れ戻す。」との祝福の約束で締めくくられる。

ダニエルについても、この同じ箇所を指して、「主の御声に聞き従いませんでした。」と4回も繰り返す（ダニ9:6、10、11、14）。それは、「主の御声に聞き従わないなら、のろわれる」との契約の

呪い（申命28:15）のゆえに、神のしもべモーセの律法に書かれているのろいと誓いが自分たちの上に下った（ダニ9:11）ことを知っていたからである。

■ヨシャパテの祈り（2歴代20:6-12）

ソロモンから五代目のヨシャパテも、モアブ人とアモン人のおびただしい大軍がユダと戦うために攻めてきた時に（2歴代20:2）、次のように、ソロモンの祈りを引用して、祈っている。「御名のために、そこに聖所を建てて言いました。『もし、剣...などのわざいわが私たちに襲うようなことがあれば、...私たちの苦難の中から、あなたに呼ばわれます。あなたは聞いてお救いください。』」（2歴代20:8-9）

祈りを聞いて下さった神は、「恐れてはならない。...あなたがたとともにいる。」（2歴代20:17）と励まし、ヨシャパテとエルサレムの住民とに大勝利を取めさせて下さった。「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」（2歴代20:21）という賛美の通りである。

- ・ユダ全国に断食を布告した（2歴代20:3／2列王19:1、エズ8:23、10:6、ネヘ1:4、9:1、ダニ9:3、ルカ2:37）
- ・主の宮にある新しい庭の前で、ユダとエルサレムの集団の中に立って、言った（2歴代20:5／1列王8:22）
- ・「御名のために、そこに聖所を建てて言いました。」（2歴代20:8／1列王8:37-40）
- ・「ご覧ください。」（2歴代20:10、11／1列王8:52、2列王19:16、ネヘ1:6、11、9:36、ダニ9:18）
- ・「恐れてはならない。気落ちしてはならない。」（2歴代20:15、17／1列王2:2、1歴代22:13、2列王19:6、エズ10:4、ネヘ4:14、ダニ10:19、ルカ2:10）
- ・「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」（2歴代20:21／エズ3:11）
- ・彼の神は、周囲の者から守って、彼に安息を与えられた（2歴代20:30／1列王5:4、1歴代22:9、19）

■ヒゼキヤの祈り（2列王19:15-19）

ソロモンから十四代目のヒゼキヤは、アッシリヤの王セナケリブからそしりを受けた時に、「地のすべての王国の神」に（2列王19:15）、「御耳を傾けて聞いてください。御目を開いてご覧ください。」と祈っている（2列王19:16）。彼の祈りは聞き入れられ、しもべダビデのために、この町を守り、救ってくださるとの約束が与えられた（2列王19:34）。

ヒゼキヤはまた、自らの病気の時にも、「主よ。どうか、思い出してください。」と訴え、（2列王20:3）、主の宮に上れるしるしを与えられている（2列王20:9）。

これらの祈りとは別に、預言者イザヤを通して彼に預言されたことばにおいても、ダニエルとのつながりを見ることができる。「たくわえてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日が来る。何一つ残されまい」（2列王20:17）との呪いの預言は、はたして、ダニエルの時代に成就したのである。

- ・自分の衣を裂き、荒布を身にまとして（2列王19:1／2歴代20:3、エズ8:23、10:6、ネヘ1:4、9:1、ダニ9:3、ルカ2:37）
- ・きょうは、苦難と、懲らしめと、侮辱の日です（2列王19:3／ネヘ4:4、ダニ9:16）
- ・「わたしを冒涇したあのことばを恐れるな。」（2列王19:6／1列王2:2、1歴代22:13、2歴代20:15、17、エズ10:4、ネヘ4:14、ダニ10:19、ルカ2:10）
- ・「耳を傾けて聞いてください。主よ。御目を開いてご覧ください。」（2列王19:16／1列王8:28、52、2歴代20:10、11、ネヘ1:6、11、9:36、ダニ9:18）
- ・「わたしに祈ったことを、わたしは聞いた。」（2列王19:20、20:5／1列王9:3、エズ8:23、ダニ10:12）
- ・「わたしのしもべダビデのために。」（2列王19:34、20:6／1列王8:24）
- ・「主の宮に上れるしるしは何ですか。」（2列王19:34、20:6）
- ・「たくわえてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日が来ている。」（2列王20:17／1列王8:4、エズ1:7、ダニ1:2）

■エズラの祈り（エズ9:6-15）

「あなたの名がつけられているこの町と民を、心に留め、...赦してください。」（ダニ9:19）とのダニエルの祈りを聞き入れて下さった神は、ペルシヤの王クロスの元年に、捕囚の民をエルサレムへ返して下さった（エズ1:1）。それは、「主はいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに。」という賛美とともに、主の宮を再建するためであった。

そのような中で、天の神の律法学者であった祭司エズラは（エズ7:10、21）、民の不信の罪のために、祈っているのである（エズ9:1-2）。「あなたがたの娘を彼らの息子にとつがせてはならない。」とのモーセの律法にそむいたことを告白し（エズ9:11-12）、恥を取り除いてくださるよう、正しい主に恵みとあわれみを請う。

- ・イスラエルの神、主の宮を建てるようにせよ。（エズ1:3／1歴代22:19、ネへ2:18）
- ・自分の神々の宮に置いていた主の宮の用具を運び出した（エズ1:7／1列王8:4、2列王20:17、ダニ1:2）
- ・第七の月が近づくと、民はいつせいにエルサレムに集まって来た（エズ3:1／1列王8:2、ネへ8:2）
- ・神の人モーセの律法に書かれているとおりに（エズ3:2／1列王8:53、56、ネへ1:7、8、10:29、ダニ9:11、13）
- ・主に全焼のいけにえをささげた（エズ3:3／1列王8:5）
- ・ツロの人々には食べ物や飲み物や油を与えた（エズ3:7／1列王5:9）
- ・「主はいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに。」（エズ3:11／2歴代20:21）
- ・「エズラよ。あなたは、あなたの手にあるあなたの神の知恵にしたがって」（エズ7:25／1列王4:29、ダニ1:4）
- ・「主はエルサレムにある主の宮に栄光を与えるために」（エズ7:27／1列王8:10）
- ・断食して、私たちの神に願い求めた（エズ8:23、10:6／2列王19:1、2歴代20:3、ネへ1:4、9:1、ダニ9:3、ルカ2:37）
- ・神は私たちの願いを聞き入れて下さった（エズ8:23／1列王9:3、2列王19:20、20:5、ダニ10:12）
- ・夕方ささげ物の時刻になって（エズ9:4、5／ダニ9:21）
- ・「恥を見せられて、今日あるとおりで。」（エズ9:6、7／ダニ9:7、8）
- ・「私たちの先祖たちの時代から今日まで、私たちは大きな罪過の中にありました。」（エズ9:7／ダニ9:8）
- ・「あなたのしもべ、預言者たちによって、こう命じておられました。」（エズ9:11／ダニ9:6、10）
- ・「イスラエルの神、主。あなたは正しい方です。」（エズ9:15／ネへ9:8、ダニ9:7、14）
- ・神の宮の前でひれ伏し、涙ながらに祈って告白しているとき（エズ10:1、11／ネへ1:7、9:2、ダニ9:4）
- ・「勇気を出して、実行してください。」（エズ10:4／1列王2:2、2列王19:6、1歴代22:13、2歴代20:15、17、ネへ4:14、ダニ10:19、ルカ2:10）

■ネヘミヤの祈り（ネへ1:4-11、9:6-37）

エズラと同じこの時代に、王の献酌官であったネヘミヤ（ネへ2:11）も主に仕えていた。彼は「捕囚からのがれて生き残った残りの者が非常な困難の中にいる」こと、「エルサレムの城壁がくずされている」ことを聞き（ネへ1:3）、「契約を守り、いつくしみを賜う方」（ネへ1:4）に祈っている。「しもべモーセにお命じになったことばを、思い起こしてください。」と言い、申命記30章の「わたしの命令を守り行うなら...天の果てにいても、わたしはそこから彼らを集め、...彼らを連れて来る」との約束に訴えるのである（ネへ1:9-10）。

彼もまた、エズラ同様に、民の不信の罪のために祈り、罪の告白をする。アブラハムの時代から始

め、神の恵みの歴史に訴え、契約と恵みを守られる神（ネへ9:32）の御名によって、あわれみと赦しを求めている。

- ・「エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼き払われたままです。」（ネへ1:3／ダニ9:17、18）
- ・喪に服し、断食して天の神の前に祈って（ネへ1:4、9:1／2列王19:1、2歴代20:3、エズ8:23、10:6、ダニ9:3、ルカ2:37）
- ・「ああ、天の神、主。大いなる、恐るべき神。主を愛し、主の命令を守る者に対しては、契約を守り、いつくしみを賜わる方。」（ネへ1:5、9:32／1列王8:23、ダニ9:4）
- ・「耳を傾け、目を開いて、このしもべの祈りを聞いてください。」（ネへ1:6、11／1列王8:28、52、2列王19:16、2歴代20:10、11、ネへ1:6、11、ダニ9:18）
- ・「イスラエル人の罪を告白しています。」（ネへ1:7、9:2／エズ10:1、11、ダニ9:4）
- ・「あなたのしもべモーセにお命じになった命令」（ネへ1:7、8、10:29／1列王8:53、56、エズ3:2、ネへ10:29、ダニ9:11、13）
- ・「わたしの名を住ませるためにわたしが選んだ場所に、彼らを連れて来る。」（ネへ1:9／申命30:4）
- ・私たちは軽蔑されています（ネへ4:4／2列王19:3、ダニ9:16）
- ・「彼らを恐れてはならない。」（ネへ4:14／1列王2:2、1歴代22:13、2歴代20:15、17、2列王19:6、エズ10:4、ダニ10:19、ルカ2:10）
- ・民はみな、いつせいに、...集まって来た...第七の月の一日目に（ネへ8:2／1列王8:2、エズ3:1）
- ・「契約を彼らと結び、あなたの約束を果たされました。」（ネへ9:8／1列王8:24）
- ・「あなたは正しい方だからです。」（ネへ9:8／エズ9:15、ダニ9:7、14）
- ・「ご覧ください。」（ネへ1:6、11、9:36／1列王8:52、2列王19:16、2歴代20:10、11、ダニ9:18）
- ・定めとおきてを守り行うための、のろいと誓いに加わった（ネへ10:29／申命29:12、1列王8:31）
- ・「イスラエルの王ソロモンは、このことによって罪を犯したではないか。」（ネへ13:26／1列王11:1-2）

新約時代における連鎖

■シメオンとアンナ（ルカ2章）

イエス・キリストの誕生を待ち望んでいた人たちにも、同形態の祈りが見られる。正しく、敬虔で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいたシメオンは（ルカ2:25）、イエスを見て、その喜びを次のように表現している。「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです。御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。」（ルカ2:29-32）これも、自身を「しもべ」と表現し、みことばどおりにしてくださったことに感謝する歌である。

また、昼も夜も聖所において、断食と祈りをもって主に仕えていた女預言者アンナも（ルカ2:36-37）、主に感謝をささげ、エルサレムの贖われることを待ち望んでいた人々に、その喜びを伝えたのである（ルカ2:38）。

- ・「恐れることはありません。」（ルカ2:10／1列王2:2、1歴代22:13、2歴代20:15、17、2列王19:6、エズ10:4、ネへ4:14、ダニ10:19）
- ・イスラエルの慰められることを待ち望んでいた（ルカ2:25）
- ・あなたのしもべ（ルカ2:29／1列王8:28、エズ9:11、ネへ1:11、9:14、ダニ9:17）
- ・夜も昼も、断食と祈りをもって神に仕えていた（ルカ2:37／2列王19:1、2歴代20:3、エズ8:23、10:6、ネへ1:4、9:1、ダニ9:3、ルカ2:37）
- ・エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に（ルカ2:38／ダニ9:24）

主の家のために祈る

これまで分析と連想を繰り返してきた、歴史書の中の祈りには、一つの共通目的が見られる。すなわち、「主が名を置く宮」のために、罪の赦しを求める祈りである。

歴史の初めから繰り返される「主の家」のテーマは、アダムとエバの御声に聞き従わない罪のゆえに、主の家であるエデンの園を追い出され、いのちの木への道を閉ざされてしまったところから始まる（創世3:23-24）。それ以降、信仰の先祖たちは、堅い基礎の上に建てられた都を求めて（ヘブ11:10）、正しく行ない、主の家にもう一度住まわうことを待ち望んでいた。

この望みは、今なお私たちの時代にも引き継がれているのであって、私たちも、ソロモンやダニエルを初め、主のしもべたちに与えられた主の家の約束に基づいて、自らの赦しを求め、「御国が来ますように。」と祈り続けるものである。

祈りの書物としても知られる詩篇では、全五巻あるうちの第四巻のテーマとしても取り扱われ、主の家に住むいのちの祝福を教えられる。神は、ご自分の民である私たちを、主の家へ帰って来るように招いて下さっている。私たちは、その招きに応えずにはいられない。

全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。
喜び歌いつつ御前に来たれ。知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。
私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である。
感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。
主に感謝し、御名をほめたたえよ。
主はいつくしみ深く。その恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。
(詩篇100篇)

おわりに

同論文は、歴史書の中の祈りに特化した分析結果であったが、聖書には、この他にも多くの祈りが存在する。導入で紹介したが、今回は触れることのできなかつた、詩篇、モーセ、ハンナ、ダビデの歌。預言書にもエレミヤ、ヨナ、ハバククなどの祈りもある。また、かの有名な主の祈りとの連鎖も確かめなければならない。その他、福音書の祈り、さらには、手紙の祈り、主の家の成就である黙示録。中でも、自分たちをイエス・キリストのしもべとして推薦する使徒たちの手紙における祈りは興味深い。研究すべき課題は山積みである。今後も、これらの祈りと格闘して、いのちのこぼれを獲得していきたい。

この論文を書くにあたって、いつも支えてくれた家族、ともに格闘してきた仲間の励ましに感謝する。特に、20年間にわたって、ともに学び、みことばを学ぶ喜びを教え、この論文の考案、内容、校正、レイアウトなどのすべてにおいて多大な労力を費やしてくれた父に感謝する。この論文を通して、ひとりでも多くのクリスチャンにいのちの祝福がもたらされることを願ってやまない。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くして下さったことを何一つ忘れるな。

2013年2月
菅野審也